

努力点だより

よく考え、判断しながら読み取る力の育成

昨年度より、本校では、学校努力点（学校が特に力を入れて行う取り組み）として、読み取る力の育成に取り組んでいます。昨年度は、本に興味をもつ体験を工夫し、子どもたちの読書習慣づくりから始めました。



読書に親しむための常時活動（昨年度）

- ・ 毎朝10分間、全校で読書をする時間の設定
- ・ 本に興味をもたせる日常的な取り組み(各学級にて)
(例)「毎週、教師のおすすめの本を読み聞かせる」
「児童のおすすめの本を掲示する」
「読書カードを記録し、振り返る」
「読書ファイルを作り、グループで本の紹介をし合う」



学級のおすすめ本コーナー（1年）

読書の楽しさを感じることに繋がる授業実践（昨年度）

- ・ 代表授業として、3年生の国語科の時間において、「わすれられないおくりもの」の物語を「文章カード」に分け、その正しい順番を考えさせました。子どもたちはこの授業を通して、文章の内容をよく吟味して、物語の流れを考えることができました。
- ・ その他の学級でも、「挿絵を基に物語を想像する」「物語の続きを想像して書く」など、読書の楽しさを感じることに繋がるような授業を行いました。

本年度は、読書活動を継続すると共に、各学年の実態に応じて、以下のような取り組みを行っていく予定です。

日常的な取り組み（例）

- ・ 「フィンランドメソッド」：具体物や実際の動きを見て、名詞・動詞・形容詞を覚える。
- ・ 「言葉の木」：新たに出てきた言葉を集めて掲示する。
- ・ 「マイ辞書作り」：新たに知った言葉を辞書で調べ、記録していく。



授業での取り組み（例）

- ・ 文章のまとまりごとに見出しを付ける。
- ・ 挿絵や文章を適切な順番に並び替える。
- ・ テストの問題文で、何を聞かれているか、どう答えたらよいかを、指示語などに注意して読み取る練習をする。
- ・ 端的にまとめたり、別の表現に変えたりする、文章の要約を継続的に行う。

トレーニング的な取り組み（例）

- ・ 言葉作り・しりとり・連想ゲームなど、言葉をつなぐ活動をする。
- ・ 新聞コラムを視写する。
- ・ 短い文章を読み、質問に答えるワークに取り組む。



本年度の取り組みの様子を、学校だよりや学年だより、授業参観等でも伝えていきたいと考えています。ぜひご家庭でも話題にさせていただいたり、お子さんと一緒に10分読書に取り組んだりしていただけると幸いです。